



## ポストコロナ時代の人類の生き方 6

# ノーベル賞と宇宙生命哲学

宇宙生命哲学者  
伊藤 俊洋

コロナ禍は下火になったとはいえ、世界は戦火に覆われていて、人心のおさまる気配はない。それでも、例年通り、人類の叡智を顕彰するノーベル賞の季節がやってきた。今年も、6件のノーベル賞に対して、4名の女性が受賞の対象になった。1901年から2023年までの女性の受賞者は64名（マリ・キュリーが2回）で、そのうち35名は2001年以降の受賞者である。受賞内容の紹介とともに、ノーベル賞の対象となる学問領域を、宇宙生命哲学的に考察する。

### 2023年のノーベル賞

物理学賞は、1秒の100

京分の1の「アト秒」という極めて短い時間を観察する技術を開発した3名の科学者、ピエール・アゴスティーニ博士（82）、フェレンツ・クラウス博士（61）、アンヌ・ルイエ博士（65）（上段左から）が榮譽に輝いた。アト秒だけ光を発生する技術によって、超高速で動く電子の動きを観測して電子の性質を理解するとともに、半導体産業などに役立つことが期待されている。

化学賞は、「量子ドットの発見と合成法の確立」に対し、ムンジ・G・パウエンディ博士（62）、ルイス・E・ブルー

ス博士（80）、アレクセイ・I・エキモク博士（78）（2段目左から）に贈られる。量子ドットはナノサイズの結晶で、さまざまな色の光を発する特性がテレビやLEDの照明に活用されており、医療現場での応用が期待されている。

生理学・医学賞は、mRNAワクチンの開発につながる発見をしたカタリン・カリコ博士（68）とドリユー・ワイスマン博士（64）（挿画3段目左から）に贈られる。新型コロナウイルスに対するワクチンが極めて短期間で開発され、結果的に数億人もの命が救われたことが、高く評価された。mRNAは、DNAの特定の領域の遺伝情報が、RNA

の領域の遺伝情報が、RNA



2023年のノーベル賞受賞者（肖像画家N.エルヘッドによる）



ノーベル賞チョコレート



伊藤俊洋（いとうとしひろ）  
 宇宙生命哲学者、1941年山梨県に生まれる、山梨大学卒、農学博士  
 北里大学副学長、北里環境科学センター理事長、日本油化学会会長、  
 極限環境生物学会副会長、日本・中国友好写真家協会会長、山梨科学  
 アカデミー副会長などを歴任  
 専門：宇宙生命哲学、極限環境生物学、アストロバイオロジー  
 活動拠点：サイエンスカフェ・コスモス（宇宙生命哲学研究所）  
 252-0329 相模原市南区北里 2-23-8  
 E-mail : itoht1201@gmail.com 携帯 : 090-9687-0207

の配列に読み替えられたもので、その情報をもとに体内でタンパク質を作ることができ、この仕組みを利用して、体内でウイルスの表面のタンパク質を作れば、実際の感染に先立って、免疫細胞がウイルスと戦う準備を整えることができる。成果が出て2年というスピード受賞である。

文学賞は、ノルウエー出身の劇作家、ヨン・フォッセ氏（64）（3段目右端）に贈られる。普遍的な人間の気持ちを詩情豊かに表現する作品が高く評価された。

平和賞は、イランの人権活動家ナルゲス・モハマディ氏（51）（4段目左）に贈られる。イランにおける女性の抑圧と戦い、全ての人の人権と自由を促進した。現在は、首都テヘランのエビン刑務所に収監されている。

経済学賞は、クラウディア・ゴールディン氏（77）（4段目右）に贈られる。米国の200年以上にわたる労働市場のデータを分析し、男女の収入や雇用の格差が生ずる原因についての包括的な研究が評価された。経済学賞で女性の受賞は史上3人目である。

ノーベル賞と学問の階層性

ノーベル賞の生みの親であるアルフレッド・ノーベルは、学問的にも非常に視野の広い、先見性のある科学者であったといえる。その根拠の1つが、ノーベル賞の対象分野である。ノーベル物理学賞は物理学の、化学賞は化学の、生理学・医学賞は生物学の分野に対する賞で、文学賞は心理学の分野を代表しており、さらに平和賞は総ての学問と人間社会を縦断するいわゆる文明賞と考えると、宇宙生命哲学が提唱している学問の階層性（図2\* または本誌257号）と良く対応している。心理学部門には文学・数学・音楽・芸術・政治・経済・宗教など精神活動が主流となる分野が集約されている。ノーベルは、優れた科学者であると同時に、優れた小説家でもあり、また翻訳家でもあった。文学は、ノーベルの身近な活動分野でもあったので、ノーベル賞の対象になったのではないかと思う。2016年に、ミュージシャンのボブ・ディランが文学賞を受賞したが、文学と音楽の共通性を考えると、全く問題ないし、ノーベル財団の視野が時代とともに広がってきた証拠でもある。

数学は、自然科学の分野の表現法として無くてはならない道具である。実際に多くの優れた数学の専門家が、ノーベル物理学賞を受賞しており、化学や生物学の分野でも、数学の力を使わなければまともな議論はできない。一方、本誌257号でも触れたが、数学には、自然現象を表現する冷徹な側面と、それとは全く別な自由奔放に空想を巡らす世界があり、それは芸術に繋がる世界でもある。このことが、数学がノーベル賞の対象にならない理由の一つと考える。

発足当初、ノーベルの構想にはなかったノーベル経済学賞は、

問題ないし、ノーベル財団の視野が時代とともに広がってきた証拠でもある。

数学は、自然科学の分野の表現法として無くてはならない道具である。実際に多くの優れた数学の専門家が、ノーベル物理学賞を受賞しており、化学や生物学の分野でも、数学の力を使わなければまともな議論はできない。一方、本誌257号でも触れたが、数学には、自然現象を表現する冷徹な側面と、それとは全く別な自由奔放に空想を巡らす世界があり、それは芸術に繋がる世界でもある。このことが、数学がノーベル賞の対象にならない理由の一つと考える。

発足当初、ノーベルの構想にはなかったノーベル経済学賞は、

本稿は、相模経済新聞11月10日号コラム「宇宙生命哲学」とはじめ、2023年のノーベル賞を補筆再構成したものである。

\*オレオサイエンス第21巻、第1号、(2021) 37頁

図2 学問の階層性

